

まほるば



病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第101号

2009年12月発行

【コラム】DPC への参加に向けて

DPCとは、ご存知のようにDiagnosis Procedure Combinationの略語で、「診断群分類」と訳され、この分類ごとに診療報酬を定額にしたのが「急性期医療の診断群分類に基づく一日あたりの包括評価制度」ということとなります。すなわちどんな医療が行われようとした病名によって診療報酬が決まっている制度であります。



この制度は、平成15年4月に特定機能病院から適用が開始され、平成21年4月現在で準備病院も含めてDPC対象病院は1,557施設、DPC算定病床数は約48万床となっており全一般病床の52.6%を占めるに至っているとされています。

当病院でも一時DPC導入による病院収益の試算を行ったことがあります。しかしその結果は当時の病院機能で計算すれば経営上かえって不利に陥るということで断念した経緯があります。とはいえ上記のようにDPC対象病院が急速に増えている中で将来的に急性期病院として生き残っていくためにはどうしてもDPCを取り入れなければならないと考えるに至りました。具体的には、平成22年6月に準備病院に応募し、2年間の準備期間を置いて、平成24年度からDPC対象病院に移行しようとするものです。当病院においてはまだ本制度に対する職員の意識が薄いとわざわざ言えません。まず取り組みの手始めとして平成21年9月にDPC対策委員会を立ち上げ、11月9日と11月16日には全職員を対象とした外部講師による説明会を行っております。今後更に委員会を中心として細部にわたって検討していく予定です。

そもそもDPC制度は延び続ける医療費を抑制しようとして従来の出来高払い制度に替わるものとして入院医療の標準化と効率化を旗印に掲げて始められました。実際、これまで実施された施設においては平均在院日数の短縮、後発医薬品使用割合の増加などを始めとして当初の目標を達成しつつあるやに見えます。また、患者満足度調査でも大きな落ち込みはないようです。しかし一方で、DPC制度そのものに内在する様々な問題点が指摘されております。すなわち、不適切なコーディングいわゆるアップコーディングによるより高い診療報酬の獲得、退院時の治癒率の低下、再入院の割合の増加、負担の多い検査の外来へのシフトなどです。これらは医療経営上のモラルハザードにつながるもので、医療そのものの変質を招く可能性のあるものです。また、「効率化」がそのまま「質の高い」医療と両立するものかどうか、真に患者の満足度の向上に結びつくものかについても議論のあるところですが、更に、DPC採用に伴って各職場の業務量の増大を来しひいては職員の心理的・肉体的疲弊を招くという事も懸念されております。

ともあれ、当病院では既定の路線としてまずはDPC準備病院として応募しようと決定したのですから、様々な問題点はあるものの、当病院の理念「生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います」を忘れることなく、今後良い方向に向けて取り組まなければなりません。

具体的には、在院日数の更なる短縮、そのためのクリティカルパスの見直しと新規導入、後発医薬品への切り替え促進、適切なコーディングに向けた学習、事務体制の整備などが挙げられます。

先行き幾多の困難が待ちかまえているとは思いますが職員一同心を一つにして対応して参りたいと思います。
副院長 柿崎 寛

【看護への誓い式を終えて】

10月29日看護学校体育館に於いて、57回生看護への誓い式が執り行われました。学生一人ひとりがナイチンゲールから灯をもらい、全員でナイチンゲール誓詞を唱え、その後「信頼される看護師になります」「人の痛みを理解できる優しい看護師になります」など、1人ひとりが誓いのことを述べました。



57回生は今年4月に40名が入学し、約6か月看護の

基礎を学んできました。現在は学内で看護技術の演習などに取り組み、来年2月には実際に患者さんへ援助をする実習に出ることになります。

看護師に必要な知識・技術・態度を併せ持ち、看護への誓い式でそれぞれがたてた誓いのことば通りの看護師像に近づくよう、今後も努力を積み重ねてほしいと思います。 教員（一年生担任）丹内 留美子



☆BFHだより☆ “おいしいおっぱいをあげよう” ～食事編～

母乳は赤ちゃんの身体を養う栄養としてお母さんからその子だけに用意された特製メニューです。お母さんの免疫が行き渡り赤ちゃんの身体を守るので病気にもなりにくく、又母乳を直接飲ませる事でお母さんの身体にはプロラクチンやオキシトシンという優しさの「子育てホルモン」が沢山です。



では母乳の質を良くし乳腺炎などのトラブルを防ぐ為にはどのような食事を摂取するのが良いのでしょうか？答えは… 農耕民族である日本人の身体に合っている和食が一番いいようです。「孫は優しい」食と言われますが、次の様な食材を使い、カタカナの食事や

乳製品は控えるようにします。

「ま」：豆類

「ご」：ごま

「は」(わ)：ワカメ・ヒジキ・昆布など海藻類

「や」：野菜(色とりどりの旬の野菜)

「さ」：魚類(特に骨ごと食べられる小魚)

「し」：シイタケなどのきのこ類・山菜

「い」：イモ類(さつまいも・じゃがいも・しいも・長いも・里いも・こんにゃくいも)

食事のポイント：①いろいろな物を万遍無く②根菜類をしっかり取る③生野菜より温野菜にする④穀物と野菜を多めに肉類は少なめに⑤具だくさんの薄味の味噌汁が便利。

時々おばあちゃん特製の煮物など如何ですか！母子にとって最高の母乳育児をおじいちゃん・おばあちゃん、応援してください。

母子医療センター 副看護師長 辻 富美子
助産師 古川 妙子

『サエラコンサートを開催して』

看護師自治会では毎年講演会を開催しております。毎年何をやろうかと考えるのですが、今年はサエラコンサートを企画しました。最近青森県内、県外でも活躍しているというデュオ“サエラ”メール送信してコンサートをお願いしたら二つ返事、でOKでした。11月4日(水)看護学校講堂で開催することに決定、早速それに向けての準備です。私はちょこっと来て歌ってもらえればなんて気軽に考えていたのですが、意外にも大変なものでして、音響、ステージの下見、ドレスを選ぶ上でのバックの色の確認、照明、会場の広さの確認など、より良いコンサートの為に一生懸命準備していただきました。ご協力頂きました看護学校に



も感謝いたします。

楽しいトーク、のびのあるすてきな歌声、うっとり聴いてしまいました。日頃の疲れが取れ明日からまた頑張ろうって思えましたが皆様はいかがだったでしょうか。歌は心が和みます。コンサート最後には残った方々と写真も撮り良い思い出になりました。

サエラさんこれからも活躍してくださいね。

参加していただきました、皆様ありがとうございました。

外来A看護師長 小山 あつ子



教育セミナー「医療職場のメンタルヘルス」開催

今年度は大分遅くなってしまいましたが、11月10日(火)に恒例の教育セミナー「医療職場のメンタルヘルス」が職員、登録医、学生を対象に開催されました。今回も北條 敬先生(前青森労災病院神経科部長、現松平病院(八戸市)副院長)に講演していただきました。

北條先生のご講演は平成19年度から始まり今回が3回目、今回は特に医師と看護師の職場における心の問題を中心に、トラブルの内容や発生状況について詳しい説明があり、これら問題の発生を予防し、あるいは早期に問題を見つけるために、職場はどうあるべきか、個々人はどうすべきか、ということについて具体的なお話をしてくださりました。この中で先生は2つのことを強調されました。

一つは職員の精神・心理面での安定には職場の上司



の役割が重要であるということ。すなわち、上司がスタッフの様子や仕事振りをよく観察していること、何か小さな異変でもあったらすぐに声を掛けてくれること、頑張ったことに対してよく褒めてくれることなど、スタッフ一人ひとりに送る「あなたのことはちゃんと見てますよ」というメッセージが、孤立・孤独を防いでくれます。

そしてもう一つ重要なこと

は、個々人がストレスに対してもう少し強くなること。具体的には、何か「はけ口」を持つこと、すなわち、趣味を持つこと、だそうです。時に少年のように趣味に没頭できたら日頃のストレスなどあつという間に霧散してしまうでしょうね。でも、趣味の無い私など、一体どうしたらよいのでしょうか。

臨床研究部長 泉井 亮

【ふるさと紹介】 ◇宮城県塩竈市◇

塩竈市は宮城県のほぼ中央、仙台市と日本三景で知られる松島との間に位置しています。

よく石巻市や気仙沼市と勘違いする方が結構います。

仙台市までは、仙石線で約20分ほどで、交通も便利なところです。奥州一の宮鹽竈神社があり、その門前町として、また港町として栄えてきました。特に、「日本一の鮮マグロの水揚げ港」に代表されるように、新鮮な魚介類が豊富にあり港町独特の食文化がつくられています。なかでも、1km当たりのすし店の数は日本一ともいわれています。テレビにも出てくる「すし哲」がありますが、ちなみに私は一度も行ったことはありません。日本酒も「浦霞」というお酒も作っており、日本



酒通の方では有名なお酒のようです。

また、「奥の細道」には松尾芭蕉が塩竈から松島へ舟で渡ったことが綴られています。塩竈には松島観光の海の玄関口としての一面もあります。松島への観光船の発着所として多くの観光客が訪れています。あまり知られていませんが、八百八島といわれる松島の島々のうち半分以上は塩竈市の行政区にあります。特に人が住んでいる浦戸諸島には、菜の花、潮干狩り、海水浴、釣りやマリンスポーツなど海や島を楽しむため多くの人が訪れています。私自身としては、松島観光よりは、浦戸諸島巡りをおすすめします。

企画課長 谷下田 喜代志

市民講座「新型インフルエンザ」

新型インフルエンザは大流行中で、すでに罹った方もいらっしゃるでしょう。ウイルスの特徴としては、免疫がないので感染率が高いこと、実験では季節性インフルエンザより肺で増殖しやすい傾向があることです。迅速診断キットの陽性率は、発症一日後が最も高いのですが、それでも8割程度です。ほとんどの方は軽症ですが、基礎疾患のない方でも重症肺炎になる場合がありますし、季節性と同様に脳症も報告されています。予防としては飛沫感染予防策とし



てマスクの着用、接触感染予防策として手洗いの励行が重要です。適切なマスクの仕方を覚えてください。それは家族がかかった場合でも同様で、家族内感染も予防できます。

対策は1つでは不十分で多くの対策を組み合わせることで効果が出ます。換気も大事です。ワクチンは発症予防より重症化予防に有効です。家族がインフルエンザに罹患した場合、職員は最低5日間はマスクを着用して勤務してください。

小児科医長 杉本 和彦

【シリーズ】臨床検査のABC 細菌検査シリーズ ⑤遺伝子検査

当院では、遺伝子検査についてはバイオハザード上、結核菌を取り扱う安全キャビネット及び専用測定機器が必要なため、現在は外部機関に委託しております。それでは、簡単に遺伝子検査（核酸増幅法検査）について説明します。



1、核酸増幅法検査とは、喀痰などの臨床検体から直接結核菌群のDNAやRNAを短時間に増幅して、結核菌の存在を証明する検査で、現在、DNAを増幅するPCR法とRNAを増幅するMDT法があります。喀痰などの臨床検体を用いたときの感度は、塗沫陽性は95%以上塗沫陰性は40~77%で、特異度はともに95%以上です。感度は培養と比べると若干劣ります

が、24時間以内に結果が判明します。塗沫陽性検体での、結核菌と非結核性抗酸菌の鑑別に有用です。

2、遺伝子検査（抗酸菌核酸同定：結核菌・非結核菌群など）には以下の様な検査法があります。

- ①結核菌群 DNA（PCR法）
- ②MAC DNA（PCR法：M. アビウム・M. イントラセラー）
- ③結核菌群 rRNA（TMA法）
- ④MAC rRNA（TAM法）
- ⑤結核菌群 rRNA（液相ハイブリダイゼーション法）
- ⑥MAC rRNA（液相ハイブリダイゼーション法）
- ⑦抗酸菌同定（DNA-DNAハイブリダイゼーション法）
- ⑧結核菌群抗原精密測定（イムノクロマト法）

良く利用される方法としてはPCR法、DDH法、イムノクロマト法が利用されています。

今回で細菌シリーズは終了です。次回は病理検査を予定しています!! 臨床検査技師長 高橋 俊英

【色鮮やかな秋色の弘前 — 弘前城菊と紅葉まつり —】

去る10月23日(金)～11月8日(日)、今年も弘前公園内弘前城植物園を会場に、「弘前城菊と紅葉まつり」が開催されました。期間中は肌寒い雨天の日もありましたが、澄み渡るまさに「秋晴れ」といった穏やかな天気にも恵まれた日も多く、たくさんのお見物の方々に賑わいました。

今年のメイン会場は、NHK大河ドラマ「天地人」より題材を得、「愛」の文字を掲げた兜や鎧姿も勇



しい直江兼続公の合戦の場面等、色鮮やかな菊花を纏った菊人形で見事に再現されていました。

菊人形の着替実演コーナーではちょうどお召し替え中の武士にも会えました。毎年人気のミニSL無料運行あり、園内を巡るのスタンプラリーあり(プレゼントとしてチューリップの球根を貰いました)、子供達も大いに楽しんでいました。

ふと空を見上げれば、どこまでも高い青空に、錦に染まった紅葉の葉。「秋だなあ・・・」しみじみと季節を思いました。



入院係 工藤 真淑

栄養管理室から「12月のイベント食」について

早いもので、今年も残すところあと1ヶ月です。一年の締めくくりである12月は何かと忙しい月ですが、個人的には一年で最もワクワクする“クリスマス”があります。

さて、12月24日は入院患者様にもクリスマスを楽しんでいただきたいということで、洋風ピラフやミートローフ盛り合わせの他に、心ばかりですがケーキを提供させていただきます。そのため先日、どのようなケーキを提供したら患者様に喜んでいただけるのか?ということでケーキを吟味し、味や大きさ、見た目などを考えて決めさせていただきました。是非、楽しみにしていただきたいと思います。

また、12月のイベント食は7日 焼きそば、9日 マグロ漬丼、15日 エビ天丼、19日 きつねうどん、25日 味噌ラーメン、28日 ナポリタンの予定です。患

者様からの「美味しい!」という言葉を励みに、これからも質の高い食事を提供できるよう頑張りたいと思います。

栄養士 四釜 諒子



★【川柳募集】あなたの川柳をお待ちしています。★

※ 広報誌編集委員会を選出した作品を掲載いたします。

お知らせ

※毎月、第4水曜日地域医療研修センターにおいて、当院職員による市民講座を開催しております。参加は自由ですので、ぜひ参加下さい。

12月は第3水曜日の16日(水)に開催の予定です

◆ 患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

発行元 **独立行政法人国立病院機構弘前病院**
Hirosaki National Hospital
責任者 臨床研究部長 泉井 亮

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL0172-32-4311 FAX0172-33-8614
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/hirosaki/>